

III 国際交流

国際交流

中村 哲、岩本由美、大塚 文、佐々木秀美

本学部の国際交流委員会の活動は本年度も昨年度に引き続く COVID-19 パンデミックにより、各国との往来が困難な状況が継続したため、停滞した。しかしながら、成果としては一昨年9月中旬にドイツカトリック大学 (KatHO-NRW) で開催された国際研究集会で発表した演題内容が同大学の組織委員会で編集され書籍として発刊されたことが挙げられる(図1)。

他には本年 10 月に Web 会議として実施された世界災害看護学会理事会へ佐々木と岩本が本学代表として出席し発言を行った。

来年度以降の学部での国際交流活動は COVID-19 パンデミックの状況の変化に依存するが、我が国や東南アジア、ヨーロッパ、北アメリカ地域の諸国においても出入国の規制緩和が見込まれると期待したい。その緩和やパンデミックの終焉の折には教員のみならず学生を含め、さらなる交流活動を進めて行けるものと希望している。

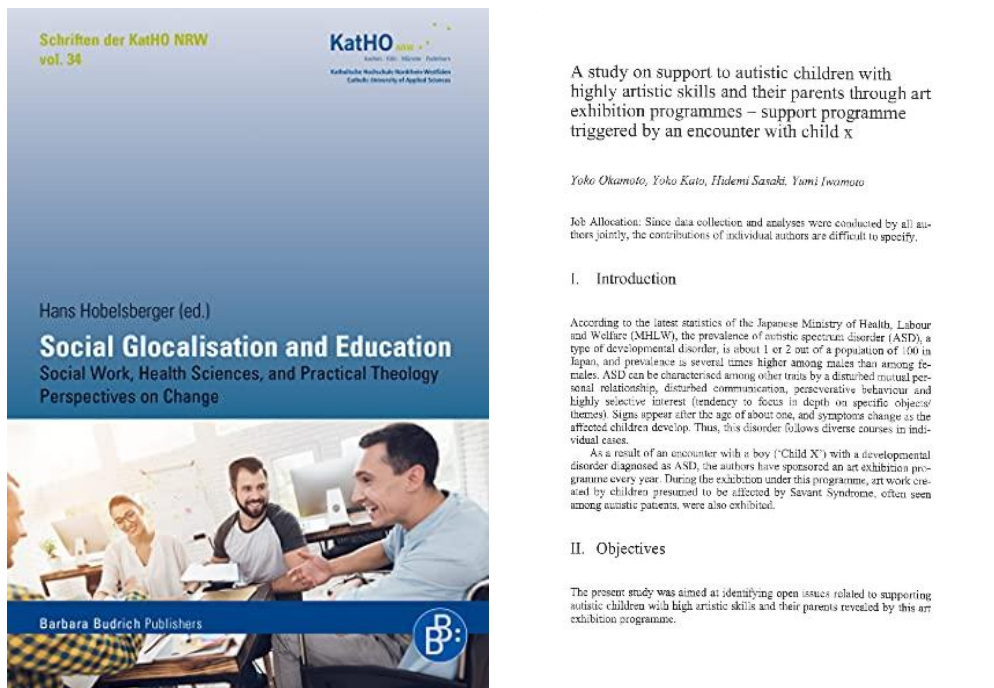


図1. ドイツカトリック大学との交流成果: Yoko Okamoto, Yoko Kato, Hidemi Sasaki and Yumi Iwamoto (2021) A study on support to autistic children with highly artistic skills and their parents through art exhibition programmes-support programme triggered by an encounter with child x, in Glocalisation and Education Social Work, Health Sciences, and Practical Theology Perspectives on Chang (Hans Hobelsberger ed.), pp. 181-191, Barbara Budrich Publishers, Opladen, Berlin, Toronto